

平成 2 9 年度
(第 2 8 期)
事 業 報 告

社会福祉法人 A J U 自立の家



目次

・ 法人本部	
・ 平成 29 年度を振り返って	1
・ 社会福祉法人 A J U 自立の家 事業概要	2
・ 生活支援部	
・ 福祉ホーム	4
・ デイセンター	6
・ 自立体験室	8
・ マイライフ	9
・ マイライフ西	1 1
・ マイライフ刈谷	1 3
・ マイライフ岩倉	1 5
・ ほかっと軒	1 8
・ 就労支援事業部	
・ わだちコンピュータハウス	2 0
・ ピア名古屋	2 6
・ 小牧ワイナリー	2 8
・ 自立生活センター サポート J	3 1
・ 相談支援事業部	
・ 昭和区障害者基幹相談支援センター	3 2
・ 相談支援事業サマリアハウス	3 4
・ 精神障害者支援事業部	
・ 名古屋マック	3 6
・ 社会啓発・社会貢献事業部	
・ アジア障害者支援プロジェクト	3 8
・ A J U 車いすセンター	4 0

※補足すべき重要な事項はないので附属明細書は作成していません。

平成29年度を振り返って

社会福祉法人 AJU 自立の家

常務理事 江戸 徹

平成29年度、AJU自立の家にとって大きな一年となりました。山田前専務理事が勇退され、今まで以上に衆知を集める合議制で物事に取り組むように事業部制を取り入れ、それぞれの事業部に事業部長を配置し、権限委譲と役割責任を明確にするなどの取り組みを行いながら、法人運営を進めてまいりました。

国においては、「障害者権利条約」の締結（平成26年）を踏まえ、平成18年に制定された「バリアフリー法」及び関連施策の見直しを進め、今年の通常国会にて改正される見通しです。

名古屋市においては、名古屋城の木造復元に関して2017年11月に新天守閣にエレベーターを設置しない方針が示された後に障害者団体等の反発を受け、有識者会議等によって検討されましたが、2018年5月にエレベーターを設置しない方針を改めて表明されました。

「史実に忠実な復元」には賛否の声があがるなかで、バリアフリー対策については「最新技術の開発」によってエレベーターに代わる対策を講ずるとしているが、具体的な技術が確立されていないことから多くの課題が残されています。

法律や制度、人々の暮らしぶりや考え方というのは、その時代と共に変わり続け、その時代に即したものでなければならないと考えています。

天守閣の木造復元についても、その時代に即した設備は当然のことであり、これから増々高齢化社会を迎えることとなり、高齢者や妊婦、子ども連れといった誰にもやさしい施設イコール障害者にもやさしい施設であってほしいと願っています。

AJU自立の家も、その時代に即した事業を実施することに注力することが求められています。障害者が65歳以上になっても、今までと同じ事業者から同様のサービスが受けることができるよう、ほかつと軒で行っていた介護保険事業を縮小し、ヘルパーステーション・マイライフにて「共生型サービス」を実施することを決めました。

多機能型施設は、地域住民からの同意を得ることができず、予算計上には至りませんでした。取り組みは、30年度に持ち越すことになりましたが、31年度には必ず施設が開所できるよう取り組んでまいります。

事業全体としては、非常に厳しい運営が強いられましたが、5年間の目標である「組織改革と意識改革」を貫くことで、自立の家が将来にわたって、「社会で最も弱い立場の人を絶対的に支える」強い組織であり続けることができますよう、取り組みを進めてまいります。

社会福祉法人A J U自立の家 事業概要報告

1. 事業の実施状況

(1) 経営施設ならびに定員

社会福祉法人A J U自立の家では、第2種社会福祉事業として20事業、公益事業として6事業を経営しています。また、平成30年度補正予算に向けて多機能型福祉施設建設の開設に向けて取り組んでいます。

法人事業以外の部分では、愛知県重度障害者の生活をよくする会、愛知県重度障害者団体連絡協議会、自立生活センター・生活塾をはじめとする障害者団体と協力し、A J Uグループとして社会福祉の向上を進めています。

①第2種社会福祉事業

平成30年4月1日現在

施設・事業所名	事業種類	定員	住 所
サマリアハウス	①障害者福祉ホーム	20名	昭和区恵方町2-15
	②障害福祉サービス事業（生活介護）	20名	
	③障害者（児）相談支援事業	—	
わだちコンピュータハウス	④障害福祉サービス事業 （就労継続支援A型、 就労継続支援B型、生活介護）	40名	昭和区下構町1-3
ピア名古屋	⑤障害福祉サービス事業（生活介護）	20名	昭和区明月町2-33-2
ピートハウス	⑥障害福祉サービス事業 （精神障害者グループホーム）	12名	北区柳原1-17-2 北区城見通1-1
マイプラン・ ケアマネジメントセンター	⑦福祉サービス利用援助事業	—	昭和区松風町2-28
障害者ヘルパーステーション マイライフ	⑧障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣） ⑨移動支援事業 ⑩老人居宅介護等事業	—	昭和区明月町2-33-2
障害者ヘルパーステーション マイライフ西	⑪障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣） ⑫移動支援事業	—	西区南川町92 若草マンション1F
障害者ヘルパーステーション マイライフ刈谷	⑬障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣）	—	刈谷市幸町2-7-14
障害者ヘルパーステーション マイライフ岩倉	⑭障害福祉サービス事業 （身体・知的・精神・児童ヘルパー派遣）	—	岩倉市大地新町1-38
	⑮地域活動支援センター	10名	
昭和区障害者 基幹相談支援センター	⑯障害者相談支援事業	—	昭和区松風町2-28
名古屋マック	⑰地域活動支援センター	20名	北区金城1-1-57
サポートJ	⑱地域活動支援センター	10名	昭和区松風町2-28

TYMルーム	⑱地域活動支援センター	15 名	北区柳原2-7-7
小牧ワイナリー	⑳障害福祉サービス (就労移行事業、就労継続支援B型)	40 名	小牧市野口大洞2325-2

②公益事業

平成 30 年 4 月 1 日現在

施設・事業所名	事業種類	定員	住 所
障害者ヘルパーステーション マイライフ	①ホームヘルパー養成研修講座 (重度訪問介護従事者養成研修)	—	昭和区恵方町 2-15
マイプラン・ ケアマネジメントセンター	②居宅介護支援事業	—	昭和区明月町 2-33-2
わだちコンピュータハウス	③重度身体障害者リフトカー運行事業	—	昭和区下構町1-3
サマリアハウス	④高齢者世話付住宅(シルバーハウジング) 生活援助員派遣事業	24 世帯	昭和区恵方町
サマリアハウス	⑤名古屋市身体障害者自立生活体験事業	1 名	昭和区恵方町2-15
法人本部	⑥アジア障害者支援プロジェクト	—	昭和区恵方町2-15

福祉ホーム

総 括

知的障害や精神障害など重複した障害のある方、人工呼吸器を使用しながら医療的ケアを必要とする方、また、責任の所在が問われる未成年の方など、必要以上に干渉せず失敗を成長の糧とするスタンスでの対応では、生活に何らかの支障が生じることから、様々な視点や試みなどを議論し対応しました。

入居者の多様性から入居から退居までの期間が短くなる方が増え、地域に出てからの支援を検討するとともに、より多くの自立を志す障害者へのアプローチが必要です。

建物内の設備や居室の備品など、随時、修繕・修理が必要な状況になっています。建物自体の老朽化が進み、来年度は外壁の修繕を行う予定です。

1. 事業実施の概要

○今年度の入居者・・・3名

氏 名	入居日	生活状況等
Aさん	8/1	親元からの入居。4年後の一人暮らしを目指す
Bさん	9/11	地域でのひとり暮らしから一旦福祉ホームへ入居
Cさん	1/19	岩手の施設から入居

○今年度の退居者・・・4名

氏 名	退居日	退居後の生活
Aさん	5/31	県内の自宅へ転居
Bさん	11/16	昭和区内のアパートにて一人暮らしへ
Cさん	11/17	東区の自宅へ転居
Dさん	3/21	西区の市営住宅でのひとり暮らしへ

○入退居者年齢別内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
入居者	1	1	1	0	0	0	0	3名
退居者	0	1	0	0	2	0	1	4名

○性別・就労形態別入居状況・・・平成30年3月31日現在、12世帯12名入居

性 別	一般就労	福祉的就労	非就労	合 計
男性	0	5	4	9名
女性	0	2	1	3名
計	0	7	5	12名

2. 目標達成のための具体的な行動

(1) 「障害者の下宿屋」の理念継承

- ・「入居者の集い」を毎月行うことで、ホームの運営に必要な共用部分の維持整備、サマリアハウスコンサートやわだちまつりでの役割など、入居者を中心に年間を通じて運営をすることが出来ました。
- ・未成年の入居者が自己決定をして失敗することで成長する過程を大切にしながら、自身が犯すリスクをどこまで許容できるのかを本人を交えて議論をしました。

(2) 多様化する障害への対応の充実

- ・入居者の内、約半数の方は身体障害以外のハンディを有しており、発達障害や精神的な問題を抱える入居者、あるいは入居希望者へ対応しました。また、金銭管理や人間関係などに問題を抱え、自宅に戻る選択を余儀なくされた入居者もありました。
- ・ホームを退居して地域で暮らす知的障害のある先輩を招いて、定期的に地域生活の実際について話し合うという企画を実施し、当事者から当事者に社会生活のノウハウが伝わっていく取り組みを行いました。コミュニケーションが苦手で、下宿屋としての自由な生活の中でかえって孤立してしまう傾向もあると思われたので、職員も介在して多くの人との関係づくりを促す取り組みをしました。
- ・進行性の神経疾患等の方で呼吸器を使用している方が、入居者やサマリア近くのアパート、またホーム入居を目指して体験室を行っている方におり、医療的な依存度の高い方への支援として、地域で既に自立生活している当事者のお宅訪問やサマリアに招いての話し合いの機会をつくりました。特に緊急時の救急医療について、当事者の目線で役に立つ訪問医療、また、体調不良時の介助者とのコミュニケーションの取り方などについて意見・情報交換を行いました。

(3) 入居者数 16 名/月の達成

- ・入居希望者の見学が 3 件あり、その内 2 名が入居しましたが、年度末の入居者数は 12 名でした。地域移行の受け皿としてより幅の広い当事者への対応が求められており、精神的なハンディを重複している、あるいはそれ単独の方への対応をしました。

3. 継続課題

(1) 多様な障害のある方への支援、及び福祉ホームを退居した方に必要な拠点作り

(2) 特別支援学校や施設への訪問、自立生活体験プログラム等をきっかけとした、新たな自立を志す当事者の発掘

デイセンター

総 括

女性常勤職員の産休に伴い、利用者の活動が制限されることなく継続した支援ができるように、新たに女性スタッフ(アルバイト)を3名雇用しました。結果、利用者個々のニーズに沿った活動のサポートが可能になりました。課題としてはデイメンバーの横のつながりをつくる場面＝メンバーで企画し活動する機会の促し、サポートが必要となっています。利用者状況は男女共各1名(合計2名)増え、女性2名が解約になりました。

1. 事業実施の概要

登録利用者数：28人(男10・女18)／1日平均利用者数：11.2／平均障害支援区分：5.1

2. 目標達成のための具体的な行動

(1) 個別プログラムの充実

- ・トーキングエイダーズとデイメンバーで、5月にポートメッセなごやで開催された国際福祉機器展へ行く企画をたて、福祉機器利用体験、情報収集を行いました。
- ・個別支援体制強化のため女性アルバイトを3名雇用しました。(7月)
- ・65歳を迎えた女性が要介護認定を受け、障害福祉サービスと介護保険を併用しながら希望の生活が送れるように、随時、相談対応をおこないました。(9月)
- ・デイの活動において作成した手芸や紙細工、陶芸の作品を、食堂の書棚を利用して展示しています。新しい作品ができた際には、随時展示をして作品制作意欲を盛り上げています。(11月～)
- ・DPI政策討論集会に、メンバー1名がスタッフと参加しました。(12月)
- ・盛岡から福祉ホームへ入居された女性(30代)が日中活動の生活基盤づくりとして生活介護の利用をスタートさせました。(1月)
- ・メンバーの意向にそって下呂温泉宿泊旅行計画を進め(男性2名参加)3月に実施しました。

<年間企画数>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
企画数(件)	5	7	6	4	8	6	6	4	6	6	4	4	66
参加延べ人数(人)	19	35	18	16	44	23	55	11	18	25	13	22	299

(2) 障害を活かした取り組み

- ・自立生活体験室の利用経験のある一人暮らしの女性(40代)が、市外の施設へ体験室の広報活動として出向き、入所者へ経験談を語ってくれました。(6月)
- ・三重の社会福祉法人伊勢きれい会(宮の里メモリアルホール)様が、生活介護の見学にみえて自立生活プログラムに参加し交流をしました。(10月)
- ・新しくWindowsから提供される会話補助アプリのモニタリング会に参加し、トーキングエイダーズのメンバー44名が参加しました。(1月)
- ・8月21日～28日(24～26は大阪)と12月25日～27日に、障害のある高校生向けの企画『四季自

立体験プログラム』が行われ、メンバー7名がスタッフとして参加しました。

- ・多くの学生・実習生の受け入れを実施し、車いす体験・お宅訪問・障害当事者としての経験や思いを話す機会を設けるのと同時に新しい実習プログラムの企画（ボッチャ、ゲーム）実施をしました。（通年）

【主な実習受け入れ先】

日本福祉大学中央福祉専門学校、愛知みずほ大学、東海学園大学、名古屋市医師会看護専門学校、西陵高校、名古屋大学、藤田保健衛生大学、中京大学、南山大学、南山中学、大谷高校、日総研、東海医療科学専門学校、CBC 美容専門学校、

(3) 学べる環境づくり

- ・昨年に続き『自立生活プログラム』を担当メンバーを中心に毎月（月末の木曜日・金曜日）テーマを考えて、デイメンバーのみで話し合う機会を提供しました。

【主なテーマ】

「デイの時間を充実させるために」「お金のこと」「ここ5年で変わったこと」「イラッと来た時、どうするか」「自己選択、自己決定について」「危機管理について」「ヘルパー、介助者について」「デイ企画について」「旅企画」「将来の生活について」

3. 継続課題

- (1) デイセンターを卒業したメンバーへの個別支援の振り返りと新規メンバーへの個別支援計画の検討
- (2) メンバーのニーズを汲み取った企画の積極的活動
- (3) 障害の重度化、高齢化から医療関係機関、他事業所との連携強化

自立生活体験室

総 括

施設等への訪問による広報活動、現入居者との交流ができる機会を提供できたことにより、利用日数は目標を大きく上回ることができました。その一方で、利用者ニーズの多様複雑化に対応する個別プログラムの提供、利用者増に伴う支援者不足の深刻化など、新たな課題の発見につながりました。

1. 事業実施の概要

区分	実人員			小計	延日数			小計	実施件数			小計
	市内	県内	県外		市内	県内	県外		市内	県内	県外	
在宅	4	3	2	9	25	62	89	176	6	4	5	15
入所施設/病院	2	0	2	4	27	0	10	37	4	0	2	6
計	6	3	4	13	52	62	99	213	10	4	7	21

2. 目標達成のための具体的な行動

(1) 自立生活のきっかけとしての社会資源の普及

事業所では名古屋市内基幹相談支援センターを中心に情報交換の活動を行い、施設・病院には中部労災病院、施設入所支援施設など延 46 件訪問いたしました。また事業の説明会を 6 回実施し、事業普及に努めました。

(2) 地域での自立生活につながるような現実性のあるプログラムの提供

現実的な生活を実感できるプログラムの提供のため、現入居者にアドバイザーとしての役割を担ってもらっています。また利用者に対しては同じ障害のある人と交流できる機会の提供のため、7 件調整いたしました。

(3) 年間利用を 180 日間、24 件を目標とします。

今期は稼働日が 213 日間と好調でした。長期での利用が増えたためと思われます。新規では 5 名(施設入所者 3 名、在宅生活者 2 名)いました。

3. 継続課題

(1) 県内入所施設等を中心に計画的、断続的な情宣活動。

(2) 本人の障害状況だけでなく、複雑なニーズに対応できるプログラムの提供。

(3) 介助者不足に対応ができるよう、介助者の新規開拓および法人内他部門に協力を要請する等、介助者の充実。

マイライフ

総 括

生活環境の変化に伴い制度の枠組みを超えた支援が必要とされました。新居への引っ越し手伝いのほか、自宅マンションのEV改修工事のため階段での外出を余儀なくされた利用者宅のお手伝いをボランティアで対応しました。

人材確保の新たな取り組みでは、マイライフ公式アカウント「LINE@」を取得しました。情報の取り扱いなど細かな取り決めを整備し、イベント情報の発信やボランティア・ヘルパー募集に活用しました。また職業訓練校との繋がりでは、当該校主催のイベントに参加し「AJU 自立の家」の取り組みをブースで紹介しました。初任者研修養成校との連携では講座終了後、男性2名がヘルパー登録されました。

障害により意思表示が難しい方へは、仲間と関わる機会をつくり、「今後、自分が何をしていきたいか？」という自身の気持ちに気づくことで、主体性と自己管理（健康・金銭・衛生面）が身につくように他部署と連携を図りました。

介護保険事業開始の体制作りでは、都度の課題に迅速に取り組むよう心掛けました。関係者及び名古屋市と協議を重ね、新規事業「共生型サービス」は次年度の7/1に事業開始を予定しています。

1. 事業の実施状況

【派遣時間数推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
28年度	16,850.5	17,363.5	16,766.5	17,018.5	16,984.0	16,893.5	
29年度	16,863.3	16,992.8	16,786.5	17,074.3	17,082.5	16,645.5	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
28年度	17,636.5	17,130.8	17,623.5	17,654.3	16,044.5	17,852.5	205,818.6
29年度	17,130.8	16,857.0	17,132.5	16,769.0	15,571.3	17,135.8	202,041.3

【サービス別派遣時間割合】

	居宅介護	移動支援	重度訪問介護
28年度	6.0%	1.7%	92.3%
29年度	5.7%	1.5%	92.8%

【利用者数】

	合計	内訳	
28年度	126名	男性73名（1名）	女性53名
29年度	127名	男性74名（4名）	女性53名

【登録ヘルパー数】

	合計	内訳	
28年度	391名	男性165名（35名）	女性226名（62名）
29年度	391名	男性169名（48名）	女性222名（56名）

※数字は【平成30年3月末現在】（ ）内は新規の契約及び登録者数

2. 目標達成のための具体的な行動

- (1) 障害の進行により生活環境が変化するなど人生の岐路を迎える方への支援【人材確保】
 - ・既存のスタッフや関係者からの紹介：人づてより登録へ繋がった方は41名です。
 - ・各大学専門学校等の授業アピール：授業アピール（全60回）より登録へ繋がった方は23名です。
 - ・公的機関への働きかけ（募集・イベント紹介チラシ等）：新たに市民活動センター（栄ナディアパーク内）、愛・地球博ボランティアセンターに繋がりました。各区生涯学習センターは訪問継続中。
 - ・未開拓分野へのアプローチ：新たに県指定職業訓練校、ヘルパー養成校、大学2校と繋がりました。
※夜間巡回体制の見直しの必要はありませんでした。
- (2) 意思決定・意思表示が困難な方への支援【成年後見制度等の権利擁護に関する学習会へ参加】
 - ・DPI 日本会議全国集会「自立生活をはじめた知的障害のある人たち」
 - ・名古屋市キャリアアップ及び現任研修「権利擁護」「精神疾患・障害の基礎的理解」
 - ・現任研修「精神障害の理解」などへ延べ13名が参加しました。
- (3) 介護保険対象者への支援（今後65歳を迎える方への対応含む）
障害者総合支援法から介護保険サービスへ移行された男性の方へ、関わりのある登録ヘルパー8名全員が移行後も変わらず支援に当たれるよう体制を整えました。

<養成事業>

○重度訪問介護従業者養成講座

開講数 12回 受講者数 105名 （内登録者数 72名）

○マイライフ オリエンテーション（4事業所共通）

受講者数 延べ138名：1年を通し、基礎的な知識と技術を身につける講座を開講しました。

○名古屋市委託事業現任研修

10月14日 21日 28日（土）の講義と施設実習1日・計22名が受講。

- ・広報も例年以上にすすめましたが、申込みが定員の1/2以下となったことが課題でした。現場で熟練した講師による経験談や当事者のメッセージ、WRAP（元気回復行動プラン）など熱心に受講していただき、アンケートでも好評価をいただきました。

○年間研修

開講数 48コマ（新規講座 11コマ）受講者数 延べ634名（4事業所共通）

- ・主な新規講座として「口腔ケアの理論と実践」を実施。当事者男女各1名と登録ヘルパーより歯科衛生士の方を選出し講師に迎え、ヘルパー活動へ直結する内容としました。「アルコール依存症と自助グループの取り組み」では、回復プログラム（AA）を実践する当事者講師を3名招き、体験談を語ってもらい、座談会形式で研修を組み立てました。

3. 継続課題

- (1) 利用者の多様化するニーズと地域移行希望者への体制作り
- (2) 65歳を向える利用者へ継続して支援できる体制づくり
- (3) 人材の確保（特に女性ヘルパー）への新たな取り組み

マイライフ西

総 括

自立生活センター生活塾と連携し、名古屋特別支援学校の生徒を対象とした放課後支援の実施、及び現在サービスを利用されている方、地域で家族と住まわれている方々を対象に、ピア・カウンセリング、自立生活プログラム、勉強会企画の実施により新しい仲間が増えました。

連携する関係機関とケース会議などを密に開催し、登録ヘルパーなどに情報提供を行い、その方にあった支援体制の充実に努めました。

1. 事業の実施状況

【派遣時間数推移】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
28 年度	2,501.0	2,560.0	2,711.0	3,115.5	2,854.0	3,048.5	
29 年度	2,780.5	3,039.5	2,863.0	2,766.5	2,782.5	2,787.0	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
28 年度	3,186.5	3,077.5	3,139.5	3,090.5	2,827.0	2,886.5	34,997.5
29 年度	2,573.0	2,616.0	2,606.0	2,506.5	1,868.0	2,132.0	31,320.5

【サービス別派遣時間割合】

	居宅介護	移動支援	重度訪問介護
28 年度	2.2%	2.9%	94.9%
29 年度	2.2%	2.8%	95.0%

【利用者数】

	合計	内訳	
28 年度	33 名	男性 18 名	女性 15 名
29 年度	32 名	男性 17 名	女性 15 名

【登録ヘルパー数】

	合計	内訳	
28 年度	113 名	男性 70 名 (16 名)	女性 43 名 (17 名)
29 年度	101 名	男性 70 名 (19 名)	女性 31 名 (7 名)

※数字は【平成 30 年 3 月末現在】（ ）内は新規の契約及び登録者数

2. 目標達成のための具体的な行動

(1) 自立生活がしたいという障害者のきっかけ作り

生活塾と連携した勉強会及び交流会の企画では、新規で参加される方が多数みられ、現在自立生活に興味がある方を含め、先輩当事者との交流の場を設けることができました。

勉強会：5 回（夢宙センター当事者スタッフ講演会、防災、やまゆり園事件など）

交流会：12 回（当事者が主体となる企画を実施）

スタッフを含め当事者の参加：1 回につき 7 名 新規参加者：延べ 10 名

青い鳥医療療育センター入所者に対する支援で、ご本人、ご家族と話し合いの上、名古屋特別支援学校高等部卒業後の生活を視野に入れ、サマリア、生活塾、マイライフ西との定期会議を行いました。支援の内容として、自立生活プログラム（外出、金銭管理、当事者お宅訪問など）の実施に努めました。次年度、サマリア入居に向けての取り組みを行います。

(2) 利用者の生活の安定化を目指した支援スタッフの確保

重点校である淑徳大学、同朋大学については、新規開拓を含め定期的な訪問を行いました。授業アピールだけでなく、サークル活動先や、ボランティアセンターなど、各大学、専門学校へもアプローチに努めました。

授業アピール：淑徳大学 5 回 同朋大学 4 回

学校訪問（関連機関、サークルなど）：淑徳大学 10 回 同朋大学 8 回

地域でもヘルパー活動に興味を持っていただくためのアピール活動をしました。11 月の重訪講座開講の際資格取得をし、現在も登録ヘルパーとして活動されています。

(3) 利用者及び関わりがある当事者へのアセスメント強化

障害の進行がある方、体調や生活環境など状況変化のある方々について、行政、相談支援センター、訪問看護、他事業所等とのケース会議を持つなど、支援体制強化に努めました。

利用者ミーティング：月 1 回 ケース会議：31 回（全利用者のべ）

<養成事業>

○重度訪問介護従業者養成講座

開講数 2 回/年（8 月、11 月）

受講者数 10 名（内登録者数 9 名）

3. 継続課題

- (1) 地域で自立生活がしたいという障害当事者のきっかけ作り及びエンパワメント
- (2) 当事者主体を大切に、利用者の生活の安定化を目指した支援スタッフの確保
- (3) 利用者及び関わりがある当事者へのアプローチを行い、関連機関との連携の構築

マイライフ刈谷

総 括

「人と人との繋がり、みんなが住みやすい三河の街を創る」をビジョンとして、ともに社会を変える仲間を増やすためにどうすべきなのかを考える 1 年でした。障害当事者に対してただ利用者になるのではなく主体性をもって社会参加すること、また、登録ヘルパーに対してただ介助するのではなく障害当事者がどのような想いで生活をしているのか知ってもらうことを大事にして活動してきたことで仲間の輪は広がっています。しかし、外部への発信力がまだまだ不十分であるため強化してより多くの仲間を増やしていきます。

1. 事業の実施状況

【派遣時間数推移】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
28 年度	2,378.5	2,516.0	2,614.5	2,715.5	2,646.0	2,630.0	
29 年度	2,770.0	2,915.0	2,737.5	2,745.0	2,482.5	2,602.0	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
28 年度	2,648.5	2,625.5	2,456.5	2,527.0	2,343.5	2,848.5	30,950.0
29 年度	2,693.5	2,697.0	2,767.0	2,761.5	2,514.0	2,734.5	32,419.5

【サービス別派遣時間割合】

	居宅介護	移動支援	重度訪問介護
28 年度	1%	0%	99.0%
29 年度	1%	0%	99.0%

【利用者数】

	合計	内訳	
28 年度	9 名	男性 5 名	女性 4 名
29 年度	9 名	男性 5 名	女性 4 名

【登録ヘルパー数】

	合計	内訳	
28 年度	134 名	男性 68 名 (19 名)	女性 66 名 (18 名)
29 年度	133 名	男性 71 名 (16 名)	女性 62 名 (16 名)

※数字は【平成 30 年 3 月末現在】（ ）内は新規の契約及び登録者数

2. 目標と目標達成のための具体的な行動

(1) 自立生活センター機能の構築

運動体としての活動を進めるために「三河自立サポートグループアクセル」を設立、活動を始めました。刈谷市の他団体とのコラボ企画の実施、ピア・カウンセリング講座の初開催、来年度自立生活プログラム開催の助成金獲得など三河地域での自立生活運動を広げることができました。

(2) 設立 10 年を振り返る

冊子の作成、記念パーティーについて進めました。冊子については設立時の職員を対象に聞き取りを行い、記念パーティーは企画書を作成し、日時・場所・招待者を確定させました。次年度には、利用者やご家族、登録ヘルパーに対しての聞き取り、パーティーのプログラム内容について具体化していきます。

<養成事業>

○重度訪問介護従業者養成講座（刈谷）

開講数 4 回/年 受講者数 20 名 （内登録者数 17 名）

3. 継続課題

(1) 利用者の地域移行へのサポート

利用者 2 名のうち 1 名が親元からサマリアハウスへ入居、1 名がサマリアハウスから三河地域への引越しを予定しているため、ヘルパーの確保を含めて自立生活のサポートをしていきます。

(2) 行政や地域との繋がりを強化

自立生活運動を広げるために自立支援協議会や福祉実践教室、行政に対する要望活動などを実行していきます。

(3) 自立生活体験室の具体化

刈谷市での自立生活体験室の設立に向けて、運営方法について検討、予算の確保、部屋探し等の具体化に向けて取り組んでいきます。

マイライフ岩倉

■障害者ヘルパーステーション

総 括

今年度は、岩倉市福祉実践教室（車いす）における当事者講師を新たに育成し、市内全小中学校に向け延べ 9 回の講義を行う事が出来ました。重度障害があっても地域で自立生活をしていると知って、子供たちの興味、関心を抱くきっかけ作りが出来ました。市内のショッピングセンターでは、車いすが通る道に障害物があると、率先して動かしてくれる小学生もいるという情報も入っています。

また、卒業生を祝う会(2/20)や学生交流会(3/10)などを開催し、将来、福祉の世界で活躍を期待する人たちとの絆を深める機会を多く持つことができました。

年度末には、学生交流会を企画、学生より「障害当事者のことを知ることが出来て良かった」と感想を頂きました。また、障害当事者と関わった事のない大学生も多く来ていただきました。

ヘルパーの利用状況としては、新たに 3 名の利用者と契約を交わし、その方々に対して 4 名の有資格者をヘルパーに繋げて、体制を整えました。地域の特性上居宅介護での利用希望が多い為、初任者研修資格所持者の発掘が課題となります。

1. 事業の実施状況

【派遣時間数推移】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
28 年度	883.0	519.5	820.5	860.3	758.5	823.5	
29 年度	379.5	395.0	395.0	352.5	372.0	403.0	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
28 年度	852.5	403.5	299.0	283.5	285.5	350.0	7,139.0
29 年度	412.5	502.0	512.5	303.5	325.5	454.5	4,807.5

【サービス別派遣時間割合】

	居宅介護	移動支援	重度訪問介護
28 年度	3.2%	3.1%	93.7%
29 年度	14.4%	7.9%	77.7%

【利用者数】

	合計	内訳	
28 年度	23 名	男性 17 名	女性 6 名
29 年度	25 名	男性 18 名	女性 7 名

【登録ヘルパー数】

	合計	内訳	
28 年度	47 名	男性 25 名（2 名）	女性 22 名（3 名）
29 年度	32 名	男性 12 名（2 名）	女性 20 名（4 名）

※数字は【平成 30 年 3 月末現在】（ ）内は新規の契約及び登録者数

2. 目標と目標達成のための具体的な行動

(1) 新たな生活を志す男性障害者の支援

近隣の自立生活センターと協力し、社会参加活動を支援していく中で、本人より「もう少し近い距離で一緒に活動していきたい」と申し出がありましたが、体調不良により活動が休止している状態です。活動再開に向けて、引き続き支援体制は継続していく予定です。

(2) 自立生活を望む若手男性障害者(18歳)との関係強化

特別支援学校卒業後に、重度訪問介護の受給申請を行い生活の基盤づくりを行いましたが、継続的な支援構築には至りませんでした。

(3) 女性障害者への安定した支援

支援者確保の為、年7回の授業アピールを行いました。(うち新規開拓1校、3回)

また新たな取り組みとして、岩倉駅にてチラシ配り(問い合わせ2件)、学生交流会(1回)を実施し、6名の新規登録に繋げる事が出来ました。

3. 継続課題

(1) 女性当事者の主体的な自立生活に向けた支援体制整備

(2) 当事者リーダー候補と自立生活を希望する利用者の発掘

(3) 介助体制の安定に向けた人材確保の強化

■地域活動支援センター

総括

利用児童数は減りましたが、個別支援に特化し、障害特性に合わせた支援を行いました。発達障害理解を深めるための外部研修として、2団体への訪問と公開講座を受講しました。『集団支援、個別指導』というキーワードを元に、一人一人の個性、障害特性を生かした支援が出来ました。中学生の頃から不定期利用となった女兒についても研修で学んだ知識を実践し問題なく支援することが出来ています。

成人の利用者に向けては、生活の質の向上として外出を多く取り入れました。釣り堀への外出の際には「初めて釣った」「楽しかった」という言葉もあり、新たな事に取り組む楽しさを知っていただけました。

1. 事業の実施状況

【利用回数(延べ)推移】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
28年度	63	58	61	58	56	60	
29年度	54	38	38	40	37	31	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	55	62	58	58	62	58	709
29年度	40	35	29	33	32	38	445

※数字は【平成30年3月末現在】

2. 目標と目標達成のための具体的な行動

(1) 本人の障害特性に合わせた活動の提案について

環境変化への対応が難しい児童に向け、ご家族へ市内療育機関の紹介や、共通したルール作りを行いました。精神的な安定に繋がり、やりたい事を集中して行う事が出来ています。

(2) 居宅介護では補えない生活の質の向上に向けた取り組みについて

自宅での入浴が困難な方の為、センターでの入浴を継続的に行う事が出来ています。買い物についても希望に合わせた支援が出来ており、生活の質とご本人の気持ちが向上しています。

1月には、3年かけて制作をした「箱庭」を岩倉市役所へ展示し、最後までやり遂げたという満足感を味わっていただきました。

3. 継続課題

(1) 利用者の障害特性に合わせた活動の提案

(2) 個別ニーズに合わせた障害福祉サービスとの横断的な支援の提供

(3) 地域とつながりのある利用者の発掘

ほかっと軒

■居宅介護支援（ケアマネジメント）

I. 総括

- (1) 介護保険のみならず、様々な制度を組み合わせた生活の組み立てを提案
 - ・生活保護や障害福祉サービスの利用を組み合わせたケアプラン作成を新規で10件達成しました。
 - ・デイセンターサマリアハウスの利用者について、65歳を迎える3ヶ月前から話し合いを進め、介護保険移行準備をしました。その際、上乘せとして移動支援が利用できるよう本人と区役所の間を仲介し、支給決定がスムーズに行われるよう支援しました。
- (2) 介護保険制度に関する情報を障害者へ提供
 - ・愛知県重度障害者の生活をよくする会、法人内の勉強会、いきいき支援センターの勉強会でそれぞれ各1回、講師を勤めました。障害者本人に情報提供するのみならず、障害者を支援する事業所にも情報提供をしました。
- (3) セルフケアプランについての情報提供
 - ・64歳の方にセルフケアプランについて情報提供しましたが、利用には結び付きませんでした。

II. 事業の実施状況

【利用者数】

	介護給付	新しい総合事業（A）
29年度	69名	11名

※数字は【平成30年3月末現在】

III. 継続課題

- (1) インフォーマルセクターも含め様々な制度を織り交ぜたプランの作成を目指します。
- (2) 昭和区を中心として地域の障害者支援力の底上げを図ります。
- (3) 65歳を迎える障害者を中心に、セルフケアプランの情報提供をより一層進めます。
- (4) 来年度4月からは、マイプラン・ケアマネジメントセンターとして事業を進めていきます。

■訪問介護・居宅介護（ホームヘルプ）

I. 総括

- (1) 65歳を迎えた障害者に対する、切れ目のない支援を行うための仕組みの構築

年度末に65歳を迎えた障害者に対して、介護保険と障害福祉が併用でサービス提供できるよう、マイライフの担当者や行政機関等と調整を図りました。
- (2) 家事援助に力を入れた支援

ヘルパーに対して、調理を中心とした家事援助の実習を年4回実施しました。
- (3) 移動支援・通院等介助・重訪加算移動など、移動にかかる介助の増加

通院や余暇的な外出など、制度内外を織り交ぜた支援を実施しました。
- (4) ヘルパーステーションほかっと軒は、来年度4月からヘルパーステーション・マイライフと一体的運営を行い、65歳を迎えた障害者の支援を中心に行っていきます。

Ⅱ. 事業の実施状況

【派遣時間数推移】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
29 年度	1,156.75	1,245.83	1,179.50	1,106.10	1,130.17	1,038.17	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
29 年度	1,004.58	973.42	935.50	896.33	630.66	678.08	11,975.09

【サービス別派遣時間割合】

	介護保険	障害福祉サービス
29 年度	51.3%	48.7%

【利用者数】

	介護保険	新しい総合事業	障害福祉サービス
29 年度	22 名	4 名	13 名

【登録ヘルパー数】

	合計	内訳	
29 年度	15 名	男性 4 名	女性 11 名

※数字は【平成 30 年 3 月末現在】

■日常生活自立支援事業

I. 総括

- (1) 知的・精神障害者等を中心に、より配慮が必要な方への支援
今年度も障害のある方を中心に新規受け入れを行いました。
- (2) あらゆる状況に対応できる専門員のスキルアップ
全社協の専門員研修に参加しました。併せて、支援員の研修にも参加して、スタッフ全員のスキルアップに努めました。

Ⅱ. 事業の実施状況

【利用者数】

12 名：平成 30 年 3 月末現在

Ⅲ. 継続課題

来年度以降、本事業は法人が直接行うこととなります。それに併せて、法人全体で事業実施できる体制作りに努めます。

わだちコンピュータハウス

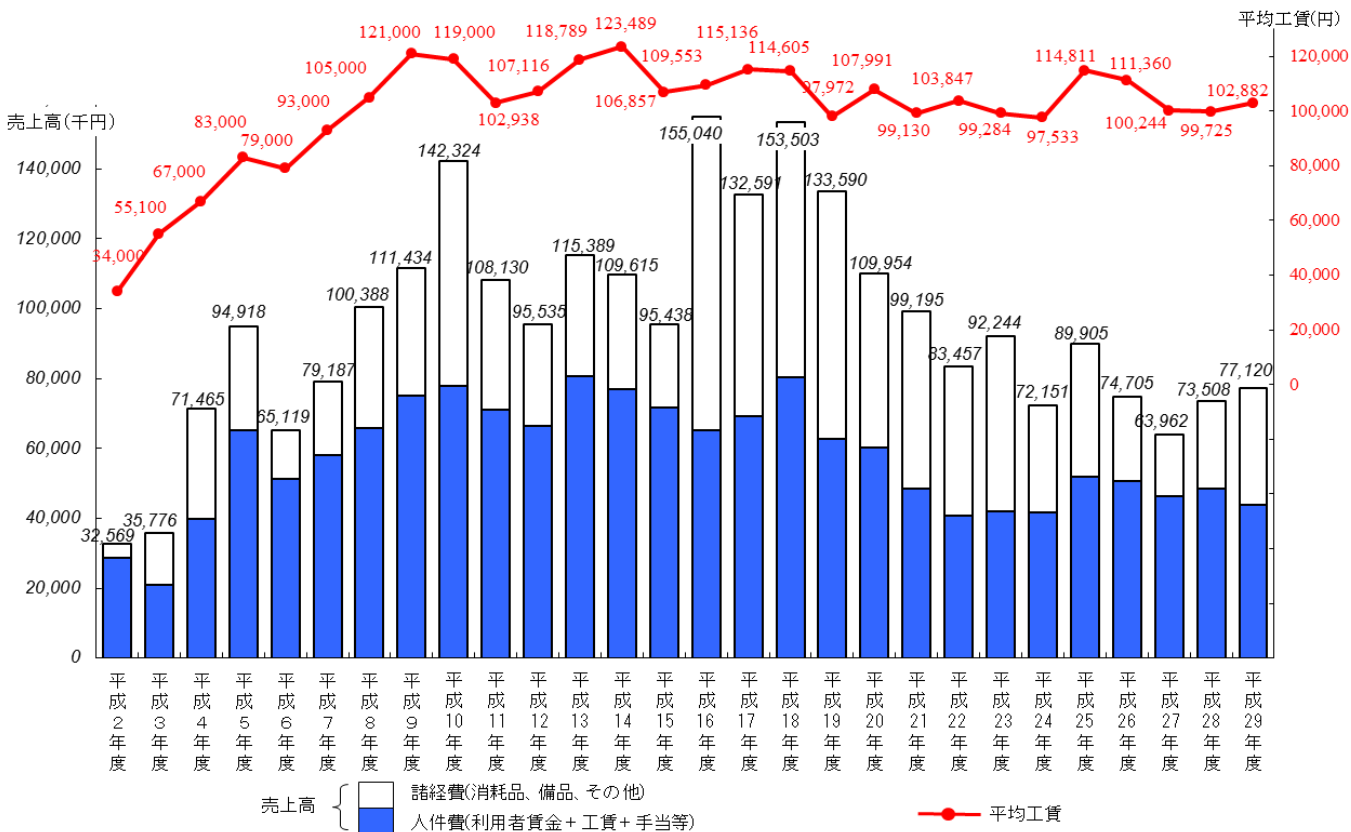
(就労移行事業・就労継続支援A型
・就労継続支援事業B型・生活介護事業)

I. 総括

1. 売上高と平均工賃

平成 29 年度の売上高は 7,712 万円でした。売上目標 6,380 万円を 1,300 万円余り上回り、前年度売上高と比べても約 400 万円の増収でした。

平均工賃は 102,282 円でした。



事業部ごとの売上高は、ユニバーサルサービス事業部 4,910 万円、IT 事業部 2,802 万円で、両事業部ともに目標を大きく上回りました。

事業部	売上高(千円)	目標額(千円)	
ユニバーサルサービス事業部	49,098	43,200	①コンサルティンググループ ②入力・集計グループ ③企画・運営・講師派遣グループ ④防災企画グループ ⑤編集・デザイングループ ⑥印刷・発送グループ ⑦リフトカー事業グループ
IT 事業部	28,022	20,600	⑧システム開発グループ ⑨WEBデザイングループ ⑩ITサポートグループ
合 計	77,120	63,800	

2. 人員の推移

- 4月1日付で女性所員1名が入所。
- 4月30日付で女性所員1名が一般就労のため退所、7月22日女性所員が急逝し退所しました。
- 職員は5月1日付で男性職員（障害当事者）1名が採用、着任。女性嘱託職員が7月より体調不良により退職し、男性職員1名が体調不良により9月から休職しました。

表1 所員の人員構成 平成30年3月31日現在

▼性別年齢構成 平均48.4歳

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	平均年齢
男性	4	2	4	9	4	1	24	48.7
女性	1	2	1	2	2	1	9	48.8
合計	5	4	5	11	6	2	33	48.7

▼居住地構成

名古屋市	24
愛知県	7
岐阜県	0
三重県	1
その他	1
合 計	33

▼障害別等級構成

	1級	2級	3級	5級	なし	合計
視覚障害				1		1
聴覚障害	1					1
肢体不自由	14	12			1	27
内部障害	1					1
精神障害		1	1		1	3
合計	16	13	1	1	2	33

▼事業別利用期間構成

	1年未満	3年未満	5年未満	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	25年以上	合計
就労移行支援	1	3							4
就労継続支援A型			1	1	2	1	2	2	9
就労継続支援B型		1	4	3	1		2	3	14
生活介護			1			1		4	6
合計	1	4	6	4	3	2	4	9	33

3. 目標（本年度重点項目）に対する総括

目標（本年度重点項目）	総括
①障害福祉計画策定業務の受注	▶ 全国一斉の障害福祉計画策定年度にあたり、計画的な受注をめざした結果、4市町（東員町、蟹江町、津島市、長久手市）から業務を受注し、滞りなく納品した。
②名古屋駅乗換空間のユニバーサルデザイン業務の推進	▶ 名古屋駅乗換空間 UD 検討業務は継続受注（2年目）し、無事完了した。 ▶ 愛知県国際展示場の UD 検討業務と、Lixil からトイレ検証業務を新たに受注した。
③差別解消法に基づくセミナー・講師派遣業務	▶ JICA 中部よりバリアフリー研修受注（2年目）。 ▶ 民間企業からのバリアフリー研修も受注（タイハウグループ様ほか）。
④事業継続計画（BCP）の策定と具体策の実施	▶ 名古屋市内の福祉事業所向けセミナーを受注、2月に開催した。
⑤業務インフラの整備	▶ 宛名印刷機の後継機導入を図った。 ▶ 火災や大地震による社屋の倒壊等による滅失に備え、わだちおよびA J Uグループ全体の業務データ（電子情報）の遠隔バックアップの仕組みを構築中。

目標（本年度重点項目）	総括
⑥コスト感覚とチェック体制の確立	▶ 見積提案、契約、仕入、出張等についてはチェックが浸透。 ▶ 業務単位での直接経費、間接経費、費用対効果の把握が課題。
⑦営業体制の刷新	▶ 新しい業務の柱の開発が継続課題。
⑧人材育成とスキルアップ	▶ 負荷分散と世代交代が引き続きの課題である中、所員、職員ともに戦力不足があり、引き続きの課題。

Ⅱ．事業の実施状況

1. ユニバーサルサービス事業部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

今年度の売上高は 4,910 万円で、売上目標 4,320 万円を 590 万円上回りましたが、前年度売上高 5300 万円に比べると 390 万円の減収となりました。

①コンサルティング、②入力・集計、③企画・運営・講師派遣、④防災企画の各グループについては売り上げ目標額を達成または上回ることができました。⑤編集・デザイン、⑥印刷・発送グループは、目標額を下回りました。

調査部と入力部が、ユニバーサルサービス事業部としてより連携を強化していくため、業務の効率化やコミュニケーションの円滑化を深めていけるようにミーティングを定例化するなど、各メンバーの意識の向上に努めました。

(1) コンサルティンググループ

愛知県大規模展示場の利便性についてのヒアリング調査を行いました。また、車いすユーザーを対象とした、企業からのモニタリング調査を行いました。

行政計画策定業務は、当初の計画よりも増え、3 市 2 町で行いました。また、ユニバーサルデザイン、バリアフリー関連業務は昨年度に引き続き、名古屋駅乗り換え空間のユニバーサルデザイン対応方策検討業務を行いました。

売上については、ほぼ目標額に到達しました。

(2) 入力・集計グループ

今年度も規模の大小に関わらず、既存の顧客より順調に業務を受注することができ、売り上げ目標額を超えることができました。しかし、新規の顧客開拓までには至りませんでした。

計画に立てた、集計業務のマニュアル化については達成できませんでした。

(3) 企画・運営・講師派遣グループ

既存の企業・行政向け研修に加え、新規の企業イベントを受注したことで自動車販売店向け研修会の追加依頼もあり、目標額を上回ることができました。

(4) 防災企画グループ

受注生産とした災害用避難所間仕切りセットについては、数件の問い合わせはありましたが、いずれも最低ロット数ではなかったため販売にはいたりませんでした。営業活動については、諸般の事情により中止しました。

災害時要援護者支援に関するコンサルタント事業については、福祉系防災セミナー等災害時要

援護者支援システムの講習会を企画・提案および実施しました。

グループとしての売り上げ目標額は達成しました。

(5) 編集・デザイングループ

既存の顧客から継続して業務を受注することができました。また、業務を分担し作業に関わる人を増やすことで、技能の習得に繋げることができました。仕様や量によって内部での対応が難しい受注に関しては、外部に委託をしました。

売上については目標額には到達しませんでした。

(6) 印刷・発送グループ

業務の担当を担える人を、少人数ですが増やすことができました。

定期的に行っている業務の中で、既存の顧客から継続して受注していた業務が終了になりましたが、その顧客から新しい業務を受注できました。

売上については新規顧客の開拓ができなかったこともあり、目標額には達成しませんでした。

(7) リフトカー事業グループ

名古屋市からの委託による 5 台のリフトタクシー運行管理の実施にあたり、担当者 1 名を増員し、利用者の要望に応えるべく担当者間で情報共有し、円滑な業務遂行に努めました。

2. I T 事業部

I T 事業部全体の売上高は 2,802 万円で、売上目標の 2,000 万円を大きく上回り、前年度より 748 万円の増収でした。

重点課題とその総括

重点課題	総括
(1) システム開発では、わだち内、A J U 内のシステム環境のメンテナンスに注力する	▶ 年間売上高 501 万円／売上目標 800 万円 ▶ 法人外の顧客向けシステムのリニューアルの予定が 2 件あったが、顧客先の予算の都合で、来年度に延期になってしまった。
(2) Web デザインでは、Web アクセシビリティ対応や、レスポンス Web デザイン対応の強みを活かして、顧客ニーズに応える。	▶ 年間売上高 1,725 万円／売上目標 1,000 万円 ▶ 提案してあった名古屋市専用サーバの乗り換えが予算化され、7 月に移行を完了した。 ▶ 「こころの絆創膏」「小牧ワイナリー」2 サイトのリニューアルを受注した。作業は次年度に持ち越した。 ▶ AJU 季刊誌編集業務、AJU 自立の家ホームページの保守管理やチラシ・パンフレット作成などにおいて、担当を後進に移行することができた。
(3) IT サポートでは、新たなパソコン動作環境や、スマートフォンやタブレットなど情報機器の利活用に対するニーズに応える。	▶ 年間売上高 437 万円／売上目標 260 万円 ▶ 作業にかかる単価を見直し、価格表に反映した。 ▶ 日常生活用具給付及び機器導入、サポートにおいて目標を上回る売上高になった。

(1) システム開発グループ

今年度は既存システムの年間契約が主で、売上高が 501 万円に留まりました。チームメンバーの障害の重度化、高齢化など深刻化していく中、限られた人材の中で適材適所の役割分担と補完しあえる体制作りができました。

今年度システム開発関係の業務については、わだち業務管理システムなどの改良を行い、既存顧客向けシステムとその PC 環境に関する問い合わせがありましたが、売上げには上がらないケースが多数あるため、問い合わせの有料化を検討します。

また、既存顧客向けシステムのリニューアルの予定が 2 件ありましたが、顧客先の予算の都合で、来年度に延期になってしまったのが今年度の売上げが少なくなった理由です。

残されたメンバーの体調状況と技術力不足があり、チームでの開発体制が更に難しくなってきました。プログラマーという仕事は一朝一夕に育成できるものでもないですが、より一層、人材の育成や外部からの人材募集など、積極的な働きかけが必要であります、それも厳しいと思います。

将来的には既存顧客システムを他の業者に引き継ぎもしくは外注委託する選択肢があると思います。

▼主な業務内容（顧客）

●愛知県住宅計画課／全日本写真連盟／中部善意銀行／A J U 自立の家法人本部／障害者ヘルパーステーション・マイライフ／A J U 自立の家後援会／A J U 車いすセンター／わだち業務管理システム

(2) WEB デザイングループ

今年度 WEB デザイン部門の売上高は 1,725 万円でした。

今年度は養護老人ホーム名古屋市寿荘ホームページを新規作成しました。小牧ワイナリーホームページ新規作成と、こころの絆創膏ホームページリニューアルも受注しました。これらのサイトは WordPress で構築し、レスポンス Web デザイン、JIS 規格の AA 準拠のサイトとなります。

なお、こころの絆創膏と小牧ワイナリーは、両サイトとも 29 年度の契約でしたが、作業自体は次年度にまたいで行います。

はっとり歯科クリニックと昭和区障害者自立支援連絡協議会は大規模更新を行いました。こころの絆創膏はご案内シートを追加しました。

前年度受注した愛知県社協ボランティアセンターとぶらっとほーむリニューアルは今年度の売りに上げに計上しています。

名古屋市専用サーバを新しいサーバに更新したので、売りに上げに大きく貢献しました。全体として目標金額以上の売りに上げとなりました。

既存ホームページの更新業務、サーバ保守管理を行いました。

AJU 季刊誌編集業務、AJU 自立の家ホームページの保守管理やチラシ・パンフレット作成などにおいて、新戦力に担当を移行することができました。

◆今後の課題

- WordPress やレスポンシブ Web デザイン、JIS 規格の AA 準拠の 3 点セットをお客様にお勧めしました。それに伴い、WordPress や JIS 規格の学習を行っていきます。
- デザインについては、毎月外部から講師を招いて講習会を行い、デザイン力の向上や Web 業界最新トレンドの学習を行いました。
- 情報セキュリティへの対応も求められていて、情報セキュリティスペシャリスト試験の有資格者を中心に、情報セキュリティポリシーの策定など、情報セキュリティ対策を行っていきます。
- 名古屋市関係のサイトは平成 30 年度末までに JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA に準拠することが必要になるため、アクセシビリティについて検討を行いました。

◆主な業務内容（顧客）

タイハウグループ、名古屋市子育て支援課（専用サーバ保守管理含む）、名古屋市健康増進課、名古屋市障害企画課、名古屋陽子線治療センター、名古屋市寿荘、愛知県社会福祉協議会、愛知県社会福祉協議会ボランティアセンター、愛知県福祉サービス第三者評価推進センター、愛知県子ども会連絡協議会、愛知県老人クラブ連合会、名古屋市社会福祉協議会、豊秋奨学会、愛知難病救済基金、愛知難病団体連合会、はっとり歯科クリニック、名古屋緑断酒新生会、中部善意銀行、ぷらっとほ一む、昭和区障害者自立支援連絡協議会、栄光社、小牧ワイナリー、AJU 自立の家ホームページ保守管理、AJU 季刊誌編集・チラシ作成・パンフレット作成、名古屋シティハンディマラソン実行委員会 ほか

(3) ITサポートグループ

今年度もパソコンと周辺機器の購入前相談や購入後の環境設定ならびに、年 6 回の一斉講習・個別講習を実施しました。また日常生活用具給付制度によるパソコン購入やパソコン本体及び周辺機器の購入相談も多数あり、依頼件数が増加しました。依頼件数が伸びたことにより、前年度比＋約 90 万と売上は好調でした。

Windows10 や Office 2016 の普及によりサポートの依頼が増加したことが背景として挙げられます。

障害当事者が対応することで、相談者や受講者の障害特性や生活状況等を考慮することを大切にし、より重度な障害者の視点に沿った支援をすることができました。パソコン講習では基本操作の他にブログ作成の習得など、受講生個別の要望に合わせた講習を行いました。パソコンのメンテナンスについては、一般業者と比べ半額以下でパソコンの修理やデータ復旧の対応を行い、数字には表れにくいですが顧客満足度の高い実績は得られたと思います。

また、わだち内部でのサーバ・ネットワーク環境の整備にも取り組みました。

Windows10 ならびに Office2016 の操作方法やノウハウの習得、講師及び相談員の IT スキルアップと人材確保の課題は依然として残っています。

◆主な業務内容

障害者 IT 総合推進事業	122 万円
IT 講習会受講料	11 万円
日常生活用具給付及び機器購入・サポート	304 万円
合 計	437 万円

ピア名古屋（生活介護事業）

<29 年度事業方針>

個々のニーズに寄り添いながら、1人ひとりの可能性を広げていける支援。

就労支援と自立生活支援の両面からの支援。

福祉用具売上目標 4,250 万円。

I. 総括

他部署・他の事業所と支援の情報共有の場を持ち、本人が希望する地域生活へ繋がる支援を行いました。新たな生活を始めた仲間との関り方を法人内各部署や他事業所とミーティングを重ねながら、情報共有と支援の方向性を確認して支援を行いました。

季節に合わせた商品など、障害当事者から見た商品の提案を行いました。

II. 事業の実施状況

1. 利用者数

平成 30 年 3 月 31 日現在

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	
男性	4	3	3	0	10
女性	1	0	1	0	2
合計	5	3	4	0	12

・入所：男性 1 名（4 月）

・退所：女性 1 名（1 月）

2. 自立生活支援

仲間からニーズを確認し、明確な方向性の個別支援計画作成を行い、他部署、他事業所との連携を継続していきながら、「今後の自立を目指す生活」・「現在の自立生活継続」の支援を行いました。職員が身体以外の障害についての勉強・研修を行いながら支援を行いました。

3. 営業活動

当事者目線での商品開拓を行い新規のお客様を増やしていくための提案を数多くしました。福祉用具を実際に使う事で生活が便利になるように、当事者ならではの商品選定を行いました。新規のお客様も少しずつですが増えてきていますので、今後の営業に繋げていきます。

4. 所員の役割を明確化

仲間の希望や経験をふまえて、営業活動・事務作業の役割を担ってもらいました。

職員が障害について勉強していく中で、身体障害以外の様々な障害がある中で特性にあった役割・仕事を明確化することができました。

5. 平均工賃 5 万円（月額）の支払

29 年度平均工賃 50,173 円／月、工賃総支払額 7,225,000 円。

仲間の特性・作業を考慮した評価基準を作成し査定の上、目標設定工賃の支払いを行いました。平均工賃は 50,173 円でした。

6. 売上報告

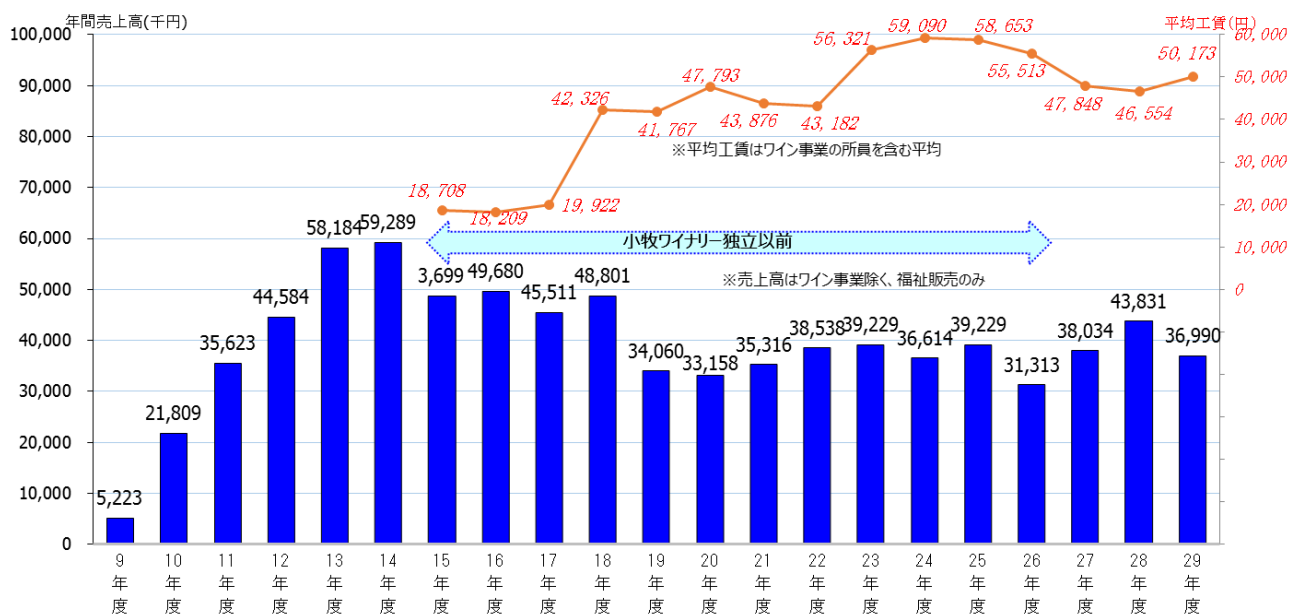
年間売上高は3,699万円で、売上目標4,250万円に対して達成率87%という厳しい結果になりました。

車いすや座位保持装置等の補装具での売上減少・名古屋市への備蓄用商品の売上減少が主な要因と考えています。

月別売上高

	補装具	日常生活用具	ベッド用品	移動機器	施設備品	入浴用品	建築・住宅備品	トイレ用品	その他	合計
4月	3,065,656	127,558	673,093	849,026	75,050	29,160	—	9,990	—	4,829,533
5月	2,193,336	570,724	—	397,724	56,700	—	—	—	—	3,218,484
6月	2,587,384	314,794	2,400	440,903	15,800	—	—	—	—	3,361,281
7月	1,197,590	86,730	651,596	104,052	63,500	185,000	—	—	—	2,288,468
8月	2,294,334	455,385	—	105,500	19,900	—	—	—	5,900	2,881,019
9月	2,428,360	424,235	—	390,512	41,000	11,000	31,500	2,862	—	3,329,469
10月	1,067,751	371,148	669,627	221,842	138,328	31,000	30,133	—	—	2,529,829
11月	1,302,128	649,955	—	40,000	110,300	—	—	—	2,028	2,104,411
12月	2,448,713	315,716	54,000	199,800	67,022	-11,000	68,000	2,880	—	3,145,131
1月	1,728,407	210,283	688,073	105,100	25,190	—	—	3,024	—	2,760,077
2月	1,423,109	438,589	4,000	335,540	62,400	—	—	—	—	2,263,638
3月	2,316,223	839,043	648,436	127,020	110,455	237,600	—	—	—	4,278,777
合計	24,052,991	4,804,160	3,391,225	3,317,019	785,645	482,760	129,633	18,756	7,928	36,990,117

年間売上高の推移



III. 継続課題

- ・仲間から求められる自立生活支援と就労支援のバランスを考える。
- ・職員のスキルアップ（自立生活支援と就労支援の両面）
- ・営業力のスキルアップと新規取扱商品の選定。
- ・所員の役割を改めて精査し、より効率化を目指す。

小牧ワイナリー（就労移行支援事業・就労継続支援B型）

＜平成 29 年度事業方針＞

目 的：ワイン生産体制の確立

目 標：①売り上げ目標 7,600 万円

②自家醸造ワイン生産 2 万本、販売 3 万 7 千本（その他、輸入ワイン含む）

③工賃支払い 1,880 万円 平均／月 46,000 円

④利用者 34 名に増員

⑤生活支援の充実

I. 総括

29 年度 4 月に特別支援学校卒業生 1 名、年度途中で 3 名が新規入所し、B 型 34 名、就労移行支援 1 名 計 35 名の利用者（充足率 87.5%）と共に事業を行いました。年間目標に対して①売上 5,400 万円、②自家醸造 1 万 4 千本、海外ワイン 1 万 3 千本、販売本数計 2 万 7 千本、③工賃支払 1,873 万円、平均/月 45,900 円、④利用者 35 名、⑤外出イベントを開催、A J U 未来会議でのニーズ調査実施という結果でした。

年度目標に対し、達成できた項目とできなかった項目があります。施設運営は利用者増加に伴い安定し、支払工賃も順調に上がっていますが、やはり大目的のワイン生産体制の確立が最重要課題であると再認識しています。中長期的な計画に基づいたワイナリーとしての基盤整備に力を注ぎつつ、利用者への工賃還元を行い、他事業所とのネットワーク構築をする中で利用者が社会で自立した生活が送れる体制に向う必要が有ります。

II. 重点目標の実施

①売り上げ目標 年間売上高 5,400 万円（売上目標の 71%）

ワインを取り扱うようになり初めて売上減少、年度当初から取り扱う商品と販売手段が限定的であること、イベント派遣スタッフの稼働日調整を行ったことから実数は 6,000 万円程度になると予想していました。しかし、それでも予想に到達しなかった大きな要因は、自家醸造ワインの不足に尽きると考えています。如何に良い葡萄を作り、手に入れ、ワインを生産できるのか。その延長に売上があります。販路は既に作っており、良い商品ができれば売上は上がります。限られた時間とスタッフで効率よく仕事をし、生産体制を整えるか。また、支払工賃と経費から今後年間 6,000 万円～6,500 万円の売上が求められ、7,000 万円～8,000 万円で安定、8,000 万円以上で余裕のある運営が可能であると試算しています。

②ワイン販売 27,000 本（販売目標 37,000 本の 73%）

多治見園場と小牧園場、購入した葡萄から作ったワイン 1 万本。信長ワイン 1 万本。その他で 1 万 7 千本。計 3 万 7 千本の予定でしたが、信長ワインの販売を抑えたことで大きく計画が減産しました。が、味と値段のバランスから、これもある程度予想の範囲内でありました。

現状のワイン市場では「安く」「美味しい」ことが求められており、このニーズに対して国産ワインの価値とポジションを理解いただき、ワインそのものの違いと値段へのご理解が重要となります。福祉の名のもとにワインを売るのでは先に陰りがあり、本物になることが全てです。ワイン

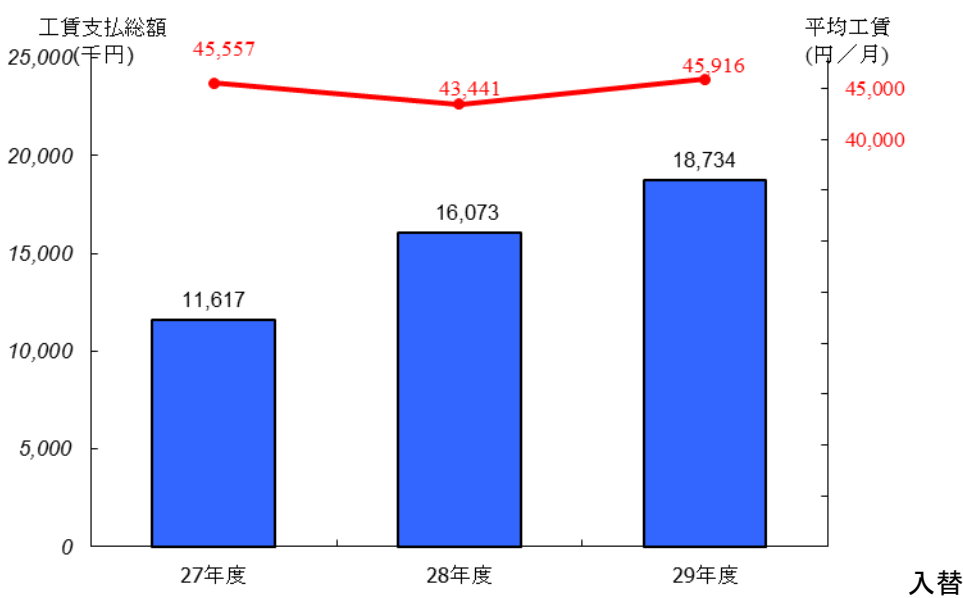
醸造の味と品質は年々向上しており、焦らず、地力をつけること。1 日平均 3 時間の農作業時間を増やし、効率的に収量と葡萄のクオリティを上げること。売上や販売本数が上がることも大切ですが、継続した事業として生き残ることを目指すべきだと感じています。

③年間工賃支払額 1,873 万円（目標達成率 99.6%）

平均工賃 45,900 円／月（目標達成率 99.8%）

工賃支払に関しては順調に推移しています。上がっていく工賃総額に対して、売上の増加が比例するようにしていかななくてはなりません。

支払総額	18,733,735 円	夏・冬ボーナス・諸手当含む（前年比 117%）							
（28 年度）	16,073,193 円	（前年比 138%）							
（27 年度）	11,617,028 円								
全体平均	45,916 円	退所者・中途入所含む月平均		支払い月数	408 ヶ月				
（28 年度）	43,441 円			支払い月数	370 ヶ月				
（27 年度）	45,557 円			支払い月数	255 ヶ月				
2 年目以降	49,423 円	2 年目以降所員の月平均		支払い月数で割った数字					
（28 年度）	60,550 円								
（27 年度）	56,607 円								
月平均	9 万円以上	8 万	7 万	6 万	5 万	4 万	3 万	2 万	1 万
	2 人	3 人	3 人	2 人	4 人	0 人	9 人	6 人	6 人
（28 年度）	1 人	3 人	2 人	4 人	2 人	2 人	3 人	5 人	9 人
（27 年度）		3 人	3 人	3 人	2 人	3 人	1 人	2 人	7 人



④利用者 35 名に増員（目標 34 名の 103%）

年度終わりに 35 名で計画通りに推移しています。

⑤生活支援の充実

生きがい・やりがいをもつことができるよう余暇活動を支援し社会参加を促進するプログラムを提供しました。仲間の成長が著しいこととワイナリーでの作業を優先させた為、実施回数は減っています。有志での飲み会、忘年会などは仲間が企画し、楽しく行っています。また、A J U

未来会議からの依頼でニーズ調査のアンケートを実施。家族懇談会ではこれからどういう生活を送りたいのか、今後 10 年でどのような支援が必要かを問いかけ、継続して話し合いをしていくことを共通認識としました。

4 月	10 日	花見 春日井市落合公園にて
5 月	22 日	春の葡萄酒祭 打ち上げ 昼食を BBQ に
7 月	18 日	海水浴@美浜
9 月		小牧市民プールにて運動
11 月	2 日	ワインフェスタお泊まり会
	27 日	慰安旅行 鳥羽へ
12 月	25 日	タイホウクリスマス会
3 月	27 日	花見 犬山城下町にて

Ⅲ. 売り上げ

年間売上：54,115,710 円（71％） 年間売上目標：76,000 千円

平成 29 年度は、店舗での売上が 18,716,819 円、通信販売、ワインフェスタ等店舗外の売上が、35,398,891 円となりました。内訳は下記のとおりです。

【販売実績】

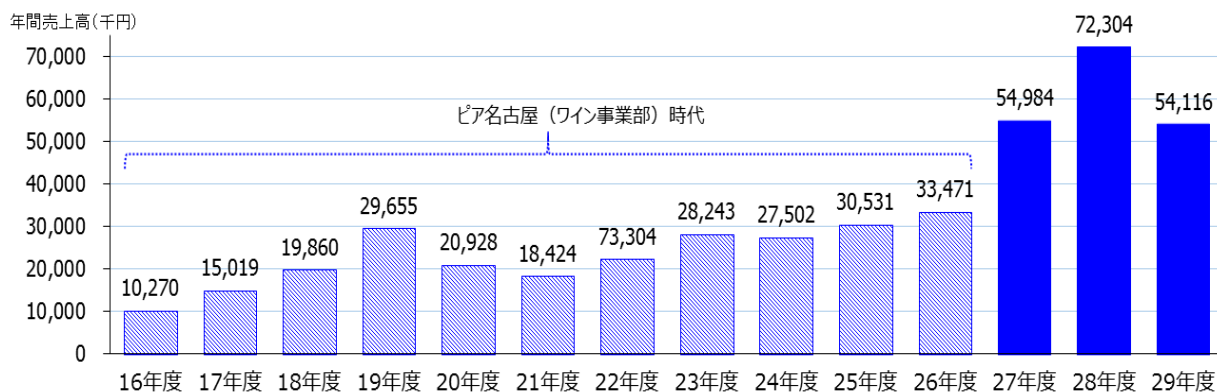
① ワイン販売

内訳	売上本数	売上額
小牧・多治見醸造ワイン	13,638 本	18,652,947 円
オーストラリア圃場ピアワイン	9,604 本	17,371,317 円
世界の修道院ワイン	3,683 本	8,036,464 円
合計	26,925 本	44,060,728 円

② カフェ、食品、その他

内訳	売上数	売上額
食品販売	7,803 点	3,388,123 円
カフェメニュー	11,447 点	5,464,068 円
その他（送料、箱代、物品販売等）		4,492,523 円
合計		13,344,714 円

年間売上高の推移 入替



＜29 年度事業方針＞

講師派遣事業が障害者の働く場としての取り組みであることを多方面にご理解を頂き、仕事として謝金が支払われるように以下のことを目的にします。

- (1) 講師派遣事業への理解と支援
- (2) 派遣講師の育成
- (3) 派遣メニューの見直しと更新

I. 総括

- (1) 講師派遣事業への理解と支援〔派遣目標 25 件〕

派遣目標 25 件に対し、実績は 23 件で、達成率 92%でした。受講者数は、1,851 人で、そのほとんどが小中高生でした。

- (2) 派遣講師の育成

講師養成講座を開講し、人材の育成に努め技能の向上が見られました。まだ道半ばといったところなので、次年度も継続して育成に努めます。

- (3) 派遣メニューの見直しと更新

前年度に立案した障害者スポーツに関するプログラムを、昭和区主催の講演会にて実施しました。

II. 事業の実施状況 入替

項 目	特別支援 ・養護学校	小中高	大学・専門	企業等研修	合 計	実習・見学 講師	派遣講師	合 計
派 遣	0 件	20 件 (1,805 人)	1 件 (15 人)	2 件 (31 人)	23 件 (1,851 人)		29 人	29 人
見学実習	0 件	7 件 (65 人)	43 件 (306 人)	11 件 (91 人)	61 件 (462 人)	172 人		172 人
合 計	0 件	27 件 (1,870 人)	44 件 (32 人)	13 件 (122 人)	84 件 (2,313 人)	172 人	29 人	201 人

III. 継続課題

- (1) 講師派遣事業への理解と支援

福祉教育をボランティア活動の一環として捉えている学校が多く、講師派遣に対して、障害者の仕事としての謝金が見られません。今後も理解を得るよう努めます。

- (2) 派遣講師の育成

次年度はさらにブラッシュアップした育成プログラムを企画します。

【基幹】昭和区障害者基幹相談支援センター（昭和区障害者地域生活支援センター）

＜29 年度事業方針＞

社会変化による障害のある人の生活の変化に対応できる相談支援のあり方を追究します

- (1) 当事者、家族等の相談に来た人のニーズに添い、安心して相談できる関係づくり、環境づくりに取り組みます。
- (2) 社会の変化とニーズに適した地域資源との連携に取り組み、ひとりの人間として地域社会で生活するために必要なつながりを考え結びつけていきます。

I. 総括

(1) 安心して相談できる関係づくり・環境づくり

- ・利用者が安心して過ごせるよう自宅訪問、必要に応じた同行、関係機関との連携に努めました。
- ・事業所と折り合いがつかず、どうしようとの相談に、利用者、事業所との調整を行いました。

(2) 社会の変化とニーズに適した地域資源との連携

- ・ケース会議を定期に開催、スタッフ間の相談や情報共有、連携を取り業務を行いました。
- ・相談員の資質向上をめざし、事業部内での勉強会を定期的に行いました。
- ・自立支援連絡協議会で定期的な部会を開催、事例検討や勉強会等、活発な取り組みを行いました。
- ・当事者部会は、昭和区総合防災訓練、宿泊型避難所運営訓練に参画。障害当事者やその家族より障害の理解を区民のみなさんに促すことができました。
- ・外国人居住者が増えていることから国際交流協会主催「多文化支援～社会福祉～」についての研修会に参加。今後増加する可能性があるので、その支援方法について学びました。
- ・福祉分野での連携をはじめ教育関係者や訪問看護師など多分野の連携を図ることができました。

II. 事業の実施状況

1. 相談支援を利用している障害者等の実人数

	実人数	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	その他
障害者	120	68	2	28	23	3	3	3
障害児	7	1	0	2	2	2	0	0
計	127	69	2	30	25	5	3	3

2. 支援内容・方法

	福祉サ ビス	障害 理解	健康 医療	不安 解消	保育 教育	人間 関係	家計 経済	生活 技術	就労	社会 参加	権利 擁護	その 他	計
訪問	379	2	111	36	0	67	16	152	0	6	20	0	789
来所	70	1	12	29	0	7	13	27	2	2	1	2	166
電話	569	2	100	228	0	29	8	61	1	1	2	1	1,002
メール	299	1	51	120	0	42	1	67	1	1	1	0	584
計	1,317	6	274	413	0	145	38	307	4	10	24	3	2,541

3. 地域自立支援協議会

昭和区自立支援 連絡協議会	総会（全体会）	部会	研修会	その他	計
	1	46	3	4	54

Ⅲ. 継続課題

- ・相談内容に応じて、必要な他機関との連携は行ってきました。今後は、関わりが必要と思われる新たな機関との連携を図るよう努力します。
- ・勉強会を開催し、各自のスキルアップにつながったと思うものの、まだ知識、技量不足を感じます。今後も積極的に外部研修の参加、勉強会を継続したいと思います。
- ・自立支援連絡協議会にて、アルコール、精神科薬の研修を実施、医療機関とのつながりを持つきっかけでしたが連携するには至りませんでした。この経験を今後に生かします。
- ・当事者部会で参画している防災訓練を通して、障害者も地域の一員であることの理解を広げます。

【特定】相談支援事業所 サマリアハウス

＜29 年度事業方針＞

(1) 一人ひとりが主人公となる支援

法人内の利用者の地域生活に関して、相談支援だからこそできる生活全般の把握を強化し、課題や気づき等を見出します。

(2) 障害当事者の主体性を確保する他事業所との連携強化

各部署・他事業所と連携する際に、相談支援者からの提案・投げかけを行い、共によりよい支援の方向性を見出す役割を担っていきます。

I. 総括

(1) 一人ひとりが主人公となる支援

①法人内の利用者支援の強化

- ・各部署と情報共有と役割分担をし、実行力のある支援体制づくりはできました。

②制度等勉強会の開催

- ・障害者団体や公的機関等が開催する勉強会に積極的に参加できませんでした。
- ・介護保険制度の勉強会について、未達成の状態となっています。

(2) 障害当事者の主体性を確保する他事業所との連携強化

①他機関との連携の強化

- ・行政、医療、基幹相談支援センターとの連携は深められました。

II. 事業の実施状況

1. 相談の手段

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	その他	合計
電話	634	445	476	0	2	0	72	1,629
来所	117	69	15	0	0	0	11	212
訪問	187	52	110	2	1	3	1	356
その他	147	121	62	1	0	1	140	472
合 計	1,085	687	663	3	3	4	224	2,669

2. 支援内容

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	その他	合計
福祉サービス利用について	889	497	567	3	3	2	61	2,022
サービス利用外について	41	162	31	0	0	0	4	238
その他	155	28	65	0	0	2	159	409
合 計	1,085	687	663	3	3	4	224	2,669

3. 計画相談の実施状況

	身体	知的	精神	発達	難病	障害児	その他	合計
利用計画（案）作成	51	22	29	1	1	1	0	105
利用計画書作成	49	22	28	3	0	1	0	103
モニタリング実施	79	43	77	0	0	1	0	200
合 計	179	87	134	4	1	3	0	408

Ⅲ. 継続課題

(1) 一人ひとりが主人公となる支援

① A J U 自立の家内の利用者支援の強化

- ・各部署との情報共有と役割分担、そして、実行力のある支援体制づくりに継続して取り組みます。

② 制度等勉強会への参加

- ・障害者団体や公的機関等が開催する勉強会や介護保険制度の勉強会など、今後も勉強会に積極的に参加し、相談員のレベルアップを図ります。

(2) 障害当事者の主体性を確保する他事業所との連携強化

① 他機関との連携の強化

- ・行政、医療、基幹相談支援センター及び他事業所との連携を深め支援の幅を広げていきます。

名古屋マック (名古屋マック・TYMルーム・ピートハウス・多機能型施設)

<29 年度事業方針>

アルコール等を使用することなく社会生活を営みたいというアルコール依存症者の手助けをします。

I. 総括

- ・名古屋マックの新規通所者 12 名ありました。退所者は 9 名でした。
プログラムの向上に関しては現状の建物では限られたことしか出来ませんが、職員が研修会等に参加し自身のスキルアップとともに学んだことを仲間に伝える努力をしました。4 ステップミーティングをプログラムとして始めました。
- ・広報活動は、市内 16 区の区役所を全て回り終えることが出来ました。利用者が増えてきているので広報活動の効果が表れてきていると思われます。
- ・TYMルームはマックから 2 名移動しましたが、途中終了者を 3 名だしてしまいました。
- ・ピートハウスは 10 名が入寮し、9 名が退寮しました。年間を通した入寮率は 89% でした。
- ・病院メッセージでは、8 か所の病院を訪れ、新規に 6 名が利用に繋がりました。
- ・多機能型施設の早期実現に向けて準備室として名古屋市との協議を重ねましたが、予算計上にはつながりませんでした。

II. 事業の実施状況

1. 名古屋マック

①利用者の状況

- ・平成 30 年 3 月末日登録利用者数 16 名。(延べ 5,418 名。一日平均 14.9 名)
今期の入所者は 12 名で、退所者は 7 名です。その内訳は 1 名が職場復帰でのプログラム修了です。1 名が入院、3 名が指示退寮、2 名が TYM ルームに移動しました。
- ・2 回のマックバザー、感謝の集い、夏季研修会、定期的なレクレーションを実施しました。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用延べ人数	446	414	434	408	472	412	480	442	429	448	492	541	5,418
一日平均利用者	14.9	13.4	14.5	13.6	14.6	13.7	15.5	14.7	14.3	14.5	17.6	17.5	14.9

2. TYM ルーム

①利用者の状況

- ・平成 30 年 3 月末日利用者数 10 名。(延べ 2,866 名。一日平均 9.2 名)で行いました。28 年度(延べ 2,762 名。一日平均 8.8 名)を上回るものとなりました。マックから 2 名が移動してきた影響です。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用者数	10	10	9	9	10	12	11	10	10	10	10	10	121
利用者延べ数	229	229	217	215	252	268	252	243	243	242	224	252	2,866
ピートハウス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ピート第2ハウス	3	4	3	3	3	3	2	1	1	1	0	0	24
通所(自宅)	7	6	6	6	7	9	9	9	9	9	10	10	97
一日平均利用者	9.2	8.5	8.3	8.3	9.3	10	9.7	9.3	9.3	9.3	9.3	9.3	9.2

②作業プログラム、レクレーションについて

- ・定期的なレクレーション及び研修会はマックと合同で行っています。独自なものとして毎週月曜日行いう温泉プログラムと3月には、篠島の一泊研修会を行いました。
- ・主な清掃・除草作業先は、城北橋教会、多治見教会、働く人の家、東海住宅、小牧ワイナリー、個人宅2件です。
- ・仲間宅でミーティングを行う訪問ミーティングを、高齢になった卒業生への支援として、続けています。

3. ピートハウス

①利用者の状況

- ・平成30年3月末日利用者数12名。(延べ3,878名。一日平均10.62名)で行いました。28年度(延べ3,555名。一日平均9.73名)を上回るものとなりました。
- ・今期は10名が入寮しています。退寮者は9名で、4名が自活退寮、1名が入院、4名が指示退寮です。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ピートハウス	6	6	5	4	6	5	5	5	4	6	6	6	64
ピート第2ハウス	6	6	5	6	6	5	5	5	5	6	6	6	67
入 寮 者	1	0	2	0	2	0	1	0	1	2	0	1	10
自 活 退 寮	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
指 示 退 寮	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	5
月末継続者	12	10	11	11	12	10	10	9	10	12	12	12	131

4. 病院メッセージ

- ・実施回数延べ：82回 参加人数延べ：1,103名

定期的にメッセージを運んだ病院は8か所ですが、前期より1か所減っているなのでその分の回数、延べ人数が減りました。新たなメッセージ先を慎重に探しましたが今期は見つけれませんでした。

5. 多機能型施設

名古屋市長と2回懇談をして、施設建設の早期実現をお願いしましたが、予算計上は叶いませんでした。4月より新任となった障害福祉部長、担当課長とは、随時連絡を取り合いながら、31年度開所を実現するための取り組みを行いました。

Ⅲ. 継続課題

- ・マック、TYMルームのさらなるプログラムの充実。
- ・多機能型施設の建設と移行の準備（サービスの充実、安定した運営）。
- ・スタッフの育成。
- ・安定した利用者確保を目指す広報活動。
- ・職員研修。

アジア障害者支援プロジェクト

I. 総括

日本からタイへ送った車いすを整備し、タイの地方都市、カンボジア、インドネシア、フィリピンに届けることができました。

10 月には名古屋市からの助成金を得て、タイの現地スタッフを日本に招き、プロジェクトの活動報告と写真展を開催することができました。

II. 事業の実施状況

(1) 車いすの贈呈

毎年 1 回実施しているアジアへの車いす贈呈のため、2 月に 125 台の車いすの箱詰め作業をおこない、タイへ輸送しました。また、車いすを輸送する際には、豊橋西ライオンズクラブ様に車いすの寄付、車いす輸送費用へのご協力をいただき、3 月末には、タイの AADP 事務局を訪問され目録の贈呈式がおこなわれました。

また、障害者団体間のネットワークを活かして、インドネシアとフィリピンの障害者に対しても車いす（インドネシア：手動車いす 2 台、フィリピン：簡易電動車いす 1 台）を贈ることができました。

(2) アジア諸国（タイ AADP 他）訪問

プロジェクトの事務局長がタイ AADP へ 4 月、7 月、10 月、12 月、2 月、3 月の計 6 回訪問しました。現地スタッフとの調整や、車いす整備ならびに整備技術の指導、ウボンラーチャターニー県やランパーン県への車いすや部品の贈呈、障害者団体の活動の様子の視察と意見交換などをおこないました。

また、バリアフリー啓発イベント「カンボジア TRY」の実施を支援するため、カンボジアの障害者団体に対して、手動車いす 20 台、電動車いす 8 台をタイとカンボジアの国境にて手渡すことができました。

(3) アジアの障害者が製作した小物の販売

AJU 自立の家内のイベント（葡萄酒まつり・わだちまつり・ワインフェスタ）や昭和生涯学習センターまつり等に出店し、タイの障害者が作成した小物の販売をおこない、現地の障害者の就労を応援することができました。

(4) イエローレシートキャンペーン

(株)イオン様が社会貢献活動として毎月 11 日に実施している「イエローレシートキャンペーン」に団体登録をおこない活動に参加しています。29 年度は年間 7 回、のべ 17 名が参加をし、プロジェクトへの支援を呼びかけました。また、レシートキャンペーンのご厚志によって、活動に必要な事務用品や車いすのメンテナンス作業に使用する器材を購入することができました。

(5) 広報活動等

(ア) 写真展の開催

ユニー（株）様のご協力のもと、6/3（土）、4（日）「リーフウォーク稲沢」、7/1（土）、2（日）「アクアウォーク大垣」でそれぞれ、プロジェクトの活動を紹介する写真展ならびにアジアの障害者が製作した小物の販売をおこないました。

(イ) アジア障害者支援プロジェクト報告&写真展の開催

日時：10月28日（土）13:00～16:30

会場：名古屋国際センター 4F 展示室

参加者：73名

「名古屋市国際交流活動助成」を受け、プロジェクトの活動を紹介する写真の展示と活動報告会をおこないました。

報告会では、活動の中心となっているタイの国や文化についての紹介、アフガニスタンの障害者支援から始まったプロジェクトの成り立ち、現地スタッフによるタイでの活動報告、ネパール、ベトナムでの活動報告と「アジア障害者支援の今後」と題した座談会をおこないました。

(ウ) 名古屋シティハンディマラソン海外選手接遇への協力

10/1（日）におこなわれた名古屋シティハンディマラソンへタイ・韓国・バングラデシュ・ベトナムから招待された8名の海外選手の滞在期間中の接遇のお手伝いをおこない、交流を深める機会となりました。マラソン当日は、競技終了後、海外選手と一緒にプロジェクトの活動アピールならびに、街頭募金をおこないました。

(エ) 「南アフリカの障害者運動と自立生活」に関する学習会

日時：12月18日（月）18:00～19:30

会場：サマリアハウス

講師：宮本泰輔氏（DPI 日本会議プロジェクトマネージャー）

南アフリカの障害者運動ならびに自立生活について、南アフリカにおける障害者の現状や課題等を学ぶ、学習会と懇親会をおこないました。

Ⅲ. 継続課題

- ・アジアでニーズの高い子ども用車いすの確保。
- ・各種助成金の申請等、活動資金の調達。
- ・今後のプロジェクトのあり方を具体化する。

AJU車いすセンター

I. 総括

ピア・カウンセリング、自立生活プログラムなどの自立生活支援事業や愛知 TRY など障害者団体がおこなう活動を通して、障害当事者のエンパワーメントを図ることができました。

また、車いす貸出事業では、福祉制度を利用して車いすを使用することができない高齢者や障害者、ケガなどで一時的に車いすを必要とする方に対し、車いすの無料貸出をおこない、年間 4,233 件の実績をあげました。そして 10 月には支部の方々との懇談会をおこない、各支部の貸出状況や課題などを中心に意見交換をおこないました。

さらに、「福祉映画祭」を通して、障害のある当事者だけではなく、その家族や関係者、さらに LGBT の方たちなど、さまざまな立場の人を取り上げ、「差別」や「人権」について、市民の皆さんに考えてもらう機会としました。

II. 事業の実施状況

(1) 自立生活支援事業

- ・ピア・カウンセリング集中講座（年 1 回開催、9 名参加）、ピア・カウンセリング オンゴーイング講座（年間 26 回開催、延べ 29 名が参加）を開催しました
- ・調理や洗濯、金銭管理、制度利用、家族との関係、介助者を使って実際にどのように生活していくかなどを話し合う全 9 回の自立生活プログラムを開催し、5 名の参加がありました。
- ・サマリアハウスと協力しておこなった自立生活体験室は、愛知県外の利用者 5 名が延べ 87 日間の利用がありました。また、入所施設や病院、事業所に対する利用説明を行いました。

(2) 車いす貸出事業

【1. 貸出実績】

	新規			更新	実績
		個人	団体		
4 月	97	41	56	264	361
5 月	76	60	16	264	340
6 月	127	33	94	273	400
7 月	63	36	27	268	331
8 月	96	45	51	277	373
9 月	54	32	22	274	328
10 月	85	56	29	283	368
11 月	55	35	20	299	354
12 月	46	37	9	290	336
1 月	61	17	44	287	348
2 月	72	31	41	286	358
3 月	57	53	4	279	336
合計	889	476	413	3,344	4,233

【2. 機種別実績（新規）】

車いす	歩行器	杖	スロープ	合 計
872	7	4	6	889

【3. 年齢別（新規個人）】

年齢	利用者
0～9	71
10～19	28
20～29	55
30～39	47
40～49	78
50～59	63
60～69	62
70～	72
合 計	476

（３）福祉相談、情報サービス事業

- ・相談事業では、主に日常業務の中で車いすの無料貸出に関する相談等を受付けました。
- ・障害者 110 番を毎週 2 回開設しました。「職場でのいじめ」、「公共交通機関における乗車拒否」、「障害のあるご本人やその家族からの家族関係に関する相談」などの相談がありました。

（４）啓発事業

- ・福祉映画祭を 2018 年 2 月 24 日（土）、25 日（日）に名古屋学院大学にて開催しました。映画を 4 本上映、映画に関する座談会、講演もおこない 2 日間で 267 名の参加者がありました。
- ・「障害」が社会や環境にあることを参加者自身が気づく体験型の障害平等研修を 3 回実施しました。

（５）障害者団体の事務局並びにネットワークづくり

- ・「愛知県重度障害者の生活をよくする会」「愛知県重度障害者団体連絡協議会」「愛知障害フォーラム（ADF）」の事務局の一翼を担い、団体の日常的な運営に携わりました。
- ・「愛知 TRY」を年間 10 ヶ所で開催。延べ 193 名が参加し、計 220 の店舗に働きかけた結果、78 の店舗にステッカーを貼ってもらうことができました。また、6 月には「名古屋大行進」を実施し、約 200 名が愛知県・名古屋市のバリアフリーを訴えて市内をパレードするなど、アピール行動をおこないました。
- ・「DPI 日本会議」、「全国自立生活センター協議会（JIL）」がおこなう会議・シンポジウム・イベントに参加し、全国の仲間との交流と情報交換を通して、最新の制度情報を得ることなどができました。

（６）その他

- ・名古屋市障害者施策推進協議会、名古屋市障害者差別解消支援会議に当事者スタッフが出席をし、「第 5 期名古屋市障害福祉計画」、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する条例」に対し、意見提起をおこないました。
- ・「ADA27 アメリカプロジェクト」に当事者スタッフが参加、国際会議への参加などアメリカの若手障害当事者との交流や意見交換をおこないました。
- ・地域との関わりとして「昭和区の福祉まつり実行委員会」「昭和区自立支援連絡協議会」に参加しました。「あじゅら」などを通じて社会啓発及び余暇活動に力を入れました。

Ⅲ．継続課題

- ・貸出用車いすの寄付を募る必要性あり。特に子ども用の車いすの確保が課題。
- ・相談事業、障害者 110 番の活性化。
- ・人材と活動に必要な財源の確保。